

## 第5回 高梁市地域防災力向上委員会 発言要旨（主なもの）

日時：令和3年8月23日（月）

14時00分～16時00分

場所：WEB（高梁市役所3階大会議室）

### 1. 開会

#### 2. あいさつ

##### （近藤市長）

大変お忙しい中ご出席を賜りありがとうございます。日頃の委員会の活動に対しまして、三村先生、氏原先生にはひとかたならぬご尽力を賜っていることに、この場をお借りして御礼申し上げます。また、この度は黒川会長様、大森会長様にもご参加いただき、ありがとうございます。

お盆に長い降雨がありましたが、幸いなことに川の越流もなく、大きな被害はなかった。ただ、いつ起こるか分からないなかで、それぞれの地域・個人がどう動くか、しっかり対策をとっておく必要があるとあらためて感じた。九州をはじめ全国各地で災害が起こっており、行政がどう動くかあらためて考える機会となったが、行政だけでもできない、住民や自主防災組織の力をお借りしながら、地域の防災力を高めていく意識をしっかりと持っていくことが重要なことであると感じた。

コロナ禍ではあるが、防災士・自主防災組織等連絡会がスタートした。小中学校を回るなど防災学習の取組みも進めている。こうした活動をなくすわけにはいかない。

成美地区・仁賀地区の取組みは、両先生にご尽力いただきながら、これからの高梁のモデルとして、皆さんに浸透していければと思っている。

この会議が大切なものになる。いろいろと議論できればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

##### （三村委員長）

コロナ禍のなかご苦勞様です。感染拡大の終末がなかなか見えてこない。向上委員会の開催にもコロナの影響が出ているが、着々と歩みを進めて来ることができたと思っている。モデル地区の皆さま方が熱心に参画いただきながら、高梁市の方が地域の方に熱心に耳を傾け、関係各位のご協力をいただきながら、かなり具体的なところが見えてきている。市全体の地区防災計画が具体的な形で整備・完備され、備えが万全の態勢が整えるように、委員それぞれのお力を拝借しながら、いい流れを作っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

### 3. 議題【各項目についてそれぞれ事務局から説明後、意見交換】

（1）第4回高梁市地域防災力向上委員会の内容

（2）自主防災組織の設立支援等モデル地区の取組状況

<意見交換>

##### （三村委員長）

モデル地区ではかなり具体的なところまで議論が進んでいる。今回は、モデル地区の成美コミュニティ推進協議会の黒川会長と仁賀地域自主防災会の大森会長に来ていただいているので、今までの取組や作成していることを含めて、ご報告をいただければと思います。

### (黒川会長)

今回の地区防災計画については、いろいろと課題も出てきていますし、コミュニティ側としては地域局、消防、行政などに、我々の知識が少ないところで、どう協力いただくかが最大の課題となっている。これからこの地区防災計画をひとつひとつのものにしていくためには、そういった方々の協力・支援をいただく必要がある。それから、町内会や住民の方々に PR していくことも必要となってくる。今後は、活動を進めるなかで、そういったことをひとつひとつ潰していく必要がある。なかなか集まって議論する場も少ない状況だが、できるだけ回数を増やしてやっていきたい。8月14日には、幸いこういった活動のおかげで知識・認識が高まっており、4家族7人が集会所に避難してこられた。今から3年前の状況からすると全然違う。そういった行動ができたということが前向きな取組だと思っている。それから、成羽体育館にも十数名が避難された。意識が高まってきている。

### (大森会長)

高齢者しかいない場所なので、一人でも助けられる命は助けていかないといけない。それをするためには、日頃のコミュニティ活動が一番重要なことであって、現在、仁賀協議会というものが母体にあって、この役員と民生委員、婦人会、消防団といった仁賀にあるあらゆる組織を活用して、まとめていく要が仁賀地域自主防災会という形になる。そういった形は頭のなかでできつつあるが、コロナ禍で何かしようとする、今集まらない方がいい、今食事なんかはまずだめだろうとか、どうしてもその範囲内ですることは、なかなか難しいことがあって、中止なり延期なりをしている。昨年、自主防災会を発足し、地区防災計画も策定しつつあるが、現実なかなか地域全体に、誰もが知っているといくことになっていない。まだまだ上部組織だけがやっている。そういったジレンマがある。こういった中でもできる方法や実際にやっている地区があれば教えていただきたい。

市の方には親身になっていただいて、計画もまとめていただいたり、引っ張っていただいたりして、非常に感謝している。このことが地域局とか、まちづくり委員会とかには、そこまで取組の真剣さというか、もっと話が出てもいいのではと思うが、自分たちには関係ないとか担当ではないとかというようなことがあるのかなと思っている。連携していくには、地域局にも知っていただいて、窓口になっていただかないと、やり取りがうまくいかないと思っている。しかし、こういったことは次の段階かなとも思う。次に行政、各地区の組織・団体ともうまくつながるかといったことも思っている。仁賀地域自主防災会でも4つの班を作っているが、消防に関係する班に関しては、災害時は一番先頭に立って動いてもらいたい、消防組織にとられるということで、平常時は上手くかみ合うが、災害時にはいない。だから地区の高齢者であろうが、役をしている人には頼まないといけないというようなことがおきるのではないかと考えている。その辺の良い知恵があれば教えていただければ幸いかなと思っている。

### (三村委員長)

仁賀地区ではひとつひとつのアクションについての確認をしながら相当深掘りをして、防災計画まで辿っていただいている。心配事が逆に顕在化する。そこまで深く議論が進んでいると拝見させていただいている。私が真備地区にも入っており、真備のなかでも先行して2地区ぐらいが地区防災計画の策定に入っておりますが、レベル感からいうと仁賀地区での議論は相当上回るくらい細かいところまで議論が進んでいると思っている。地域でやるよという想いも伝わってきておりますし、向上委員会の専門家の方々を接続していきながら、いざというときに安全安心な対策がどこまでとれるかというところまでできているという点では、大きな進捗状況の確認ができていると思っている。

心配事は尽きませんが、引き続き頑張っていければと思っている。

**(乗松委員)**

今回の資料を見まして、3月まで在籍しておりまして、いろいろと取り組んでまいったんですけども、非常に取組が進んだなという感想を持っております。両地区で地区防災計画をまとめていただいて、両会長とも課題があるというふうに言われておりましたが、みなさんしっかり取り組んでいただいた結果で、その一つずつ上のところの課題が見えてきている状態ではないかなと思っている。しっかりと皆さまが取り決めたことを検証していきながら、今回のお盆の間の出水などいろいろと試してみることで活動が向上していいものになっていく。コロナということでジレンマあるということでしたが、諦めずに市の方でもしっかりとサポートしていただけますし、三村先生、氏原先生、岡山県、私の方もしっかりとサポートしていきますので、皆さんと一緒に地域の防災力を上げる活動を続けていけることを望んでいます。

**(横田委員)**

二つの地区につきましては、非常に熱心に取組の方をしていただいており、非常にありがたいことだと思っております。備中県民局におきましても、今年度この二つの地区に対しまして、防災マップの支援をさせていただきたいと思っております、その準備の方を進めております。その節にはよろしく願いいたします。一般的な話であるが、こういった計画を作るのは非常に労力があるが、実効性の確保が問題になる。実効性の確保及び取組が継続できるかが重要になってくる。どの地区においても高齢化が進行しており、後継者の問題もある。こうした取組がずっと継続できるように組織づくりとかも取組ながら取組を進めていただければと思います

**(三村委員長)**

県の方からも力強いご支援のお話がありましたが、この辺もまとまりましたら、今回の計画とマップづくりのところとも大学としてブリッジをかけさせていただく、この二つの地区のモデル事業については、後押しを継続していく。

**(黒川会長)**

河川の逆流防止弁が、成美地区のこういった所にこういった装置があるのかといったことが地域住民の方や我々が把握していない。河川の水位がどの位置に来たら、弁を開けたり閉めたりするのか、そういったことをマップに入れるための資料を準備いただければと思う。

**(事務局)**

高梁地域事務所や市の担当課と連携をとりまして、マップづくりに反映させていければと思っている。

**(市長)**

それぞれ地域の皆さんが親身になって作っていただいているということで、大変心強く思うところである。これを防災計画としてもっていくには、まだ加えたりしないといけないところもあると思う。地域のことを地域で知ろうという動きは大変ありがたい。ここには行政からの情報も加えて行って、特に分かりやすくしないといけないと思いますので、住民のみなさんが分かりやすい形の防災計画にしていただければと期待をしている。

(3) その他の取組状況

(4) 向上委員会活動一覧の作成について

(5) 高梁市地域防災力向上の目標・行動計画(案)

**(三村委員長)**

初回の委員会の時に議論がスタートしたのですが、ここまで進めてきてかなり具体的な話が見える化、進んで来ている。例えば、課題を具体的に委員会の皆さんのご協力をいただきながら具体的にどうしていくのかといったところまで落とし込みをしていくのが一つのゴールになると思います。それがかなり具体的に見えてきたというステップまで進んできた。

#### **(横林委員)**

社会福祉協議会では災害時にはボランティアセンターの設置が大きなポイントになってくる。ただ、これは災害を受けてからになるので、平時にいかに関心を持っておくのか、災害に対して市民の皆様意識の高揚を図っていくのかというのが大切になってくる。

感想になるが、成美地区と仁賀地区の話をお聞かせいただいて、町内の連絡網というのが資料の中にあって、社会福祉協議会では民生委員さんがやられている災害時一人も見逃さない運動を福祉委員さんに毎年4月をお願いをしている。こういう事業があるので協力してくださいねということをお願いをしている。私自身、成果がどのようにあるのかと思っていたところがあるんですけども、今回の大雨時に福祉委員さんから私の方に連絡網が回ってきました。ここに逃げてくださいねとかというようなことのいろいろな説明がありましたので、日頃からそういった訓練をしているとか、共通認識を持っておくとかは非常に大事な事かなと思いました。今回、そういったことが計画に入っていくということが非常にいいことだなと感じました。

#### **(加藤委員)**

消防団の平常時の活動としましては、日頃から火災、水害など各種災害に対して対応できるよう団員みんなで訓練を積んでおります。災害時の時には、特に8月14日の時には団本部は消防署に詰めまして、各分団の動きをしっかりと把握できるように準備を整えて、報告を待つ指示を出すというような活動しております。そして団員の方では、団本部と連携して、今このような災害がおきていると連絡を入れていただいて、その連絡をもとにその地区の人が水が溢れそうなので土のうを積んでくれとか、水の流れが悪いので水の流れをかえてみたりとかといった活動を災害時には、地区からの要請があったことに対してと我々が自主的に広報活動、見回り活動をして地域の安心安全を守るようにしている。復旧時の活動は、消防団の方は他の仕事を持っているので、そちらの方に行くようになるので、避難指示が解かれれば活動も解くようにしている。

それと、仁賀の自主防災会の消防・水防班に消防団の部長・副部長の名前があがっており、災害時は団本部下の組織となると書いてあるが、一応災害時は団本部の指示のもとで活動するようになるが、実際には地域のことがどのようになっているのかを団本部にあげてもらって、その活動内容に応じて土のうを積むとか、人が取り残されていたら搬送のお手伝いをしたり、ということで全てが消防団の活動にとるということではなく、地域のことにつきまちは我々と相談しつつ、地域の人と協力していきたいと思っているので、安心していただければと思っている。

#### **(神田委員)**

資料を拝見させていただいて、完璧な非常に出来の良い資料ができています。ただ、地域の住民の方が置いてけぼりになっている感が正直ある。共助・自助を専門家の視点でまとめた、行政がまとめたというのが否めない。地区防災計画はそもそも地区の方がつくるものであるため、これからその追い上げをしないとダメだなと。

それからコロナで伝統的な訓練はできない。そこは頭を使っていろいろなことを考えながらやっていく。例えばWEBを使って、対面しないで取り組む方法もある。県内ですが、行政無線を使って、一斉に放送をして、非常持出を持って玄関を出るまでのタイムを計るといったことをやると

ころもある。これだと一般住民の方も参加できるし、お年寄りの方、要支援者の方も参加できる。それから非常食を作るのも、実際に食べるころまでいくとどうかなというころはあるが、食べるころの直前で止めて、あとは持って帰って食べる。そういうなかで、ここまでできた地区防災計画を訓練でもって検証していただきたい。絵に描いた餅にしないで、訓練でこれはできる。普通に雨が降っても、練習で避難してみようでもいいから、とにかく避難所に行ってみよう、開けてみようというものも含めて訓練で整合性なり、実効性の確かさを確認していただいて、そういうなかで住民の意識を盛り上げたり、勉強していく防災計画はいかがなと思う。

**(三村委員長)**

これまでは地域の代表者の方に来ていただいており、地域の皆さんのところまでどう落とししていくかができないと、実践的ではない。ペーパー的には立派なものできているが、本当に動くのかといったころ、そのための日頃の地域の皆さま方の本気で参加をしていく、地域は自分たちで守るといったころまでもっていくには、まだまだこれから時間が掛かっていく部分になる。ただ、その入り口の流れができつつあるので、アイデアや知恵、実践するためのこんなやり方もあるんだよということも含めてお力添えを引き続きお願いしたい。

**(蜂谷委員)**

ケーブルテレビとしてもっとできることがいっぱいあるのに、させてもらってないのかなと思いました。まとめるのが難しいからまとまっていけないなかで、しっかりまとめられていらっしゃる両地域やその他の自主防災会の方々はヒーローなので、皆さんの取組をもっともっとお伝えしたいなと思いました。先日の大雨の時は、これまでそういった動きが取れていなかったのですが、8月14日から弊社の自主番組で6回生放送をして、現地の映像であったりとか、どういう状況で指示が出ているのかというものをさせていただいた。防災の意識を高めていくことが重要であるといったお話があったが、これまで11チャンネルで河川監視カメラの映像を流さしていただいている。普段は別の番組が流れているが12日から河川監視カメラの映像に変えさしていただいた。14日からは12チャンネルに切り替えていきました。十分なことができているとは思っていません。反省点もたくさんあるので、ご意見あれば、いただければと思います。これまでよりも早く取り組むことで、みなさんの防災に対する意識というか、ちょっとまずいんじゃないかと分かっていたように、そういった取組みをさせていただきました。

**(6) 今後のスケジュール**

**(氏原副委員長)**

地区防災計画に関しては、1か月で随分内容が変わった。最初は金太郎あめみたいなもので、これはダメだろうということで、かなりこちらから指摘をさせていただいた。特に住民の住民による住民のための計画になっているかということが大前提で、来る災害時に本当に使える計画になっているかも重要であるし、継続的に改善されて、それが引き継がれる計画になっていないといけない。そういった視点で様々な指摘をさせていただいた。その都度修正対応いただいて、どんどん我がまちの計画になっていったかなと思っている。私自身もこの計画を我が事と思って、作成に携わらせてもらっているので、これからも引き続き、精一杯協力させてもらいたいと思っている

**(三村委員長)**

地域の皆さんが自分事として受け止めていただいて、動かすところまでもっていくのは相当大変だと思う。何とかそこをゴールにしながら、腑に落ちる、腹落ちしていただいて運用できる、実践できる地区防災計画までもっていく。ここまで参りましたので、ぜひ今日の委員の皆さま方、それ

ぞれの団体でやっていただけることを出していただきましたけれども、地域の皆さんが自ら作ろうとされているものと掛け合わせをして一体化をした高梁市全体の地区防災計画までもっていきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

#### 4. 閉会

(氏原副委員長)

情報が整理されていないところがあって、いろいろな方面から角度から情報が集まってくる。一度行政の方で、どういう情報がどういった方々を通じて回っているのかを整理していただきたいと思いました。ここ数カ月の間で様々なことが進んだと思っている。内容としては素晴らしいものに近づいてきている。コロナ禍のなかでなかなか動きづらい状況のなかで、どう進めていったらいいのかというのがあるかもしれないが、できることをやっていくしかないと思っている。特に悩みながら進んだ分だけ素晴らしいものになると思っているので、考えることを止めない、防災を止めないという姿勢で進めていってもらいたい。今回行政のやることとか、地域の方、住民の方にやっていただくこととか、委員会でやることとかが整理されてきている。気になっていることが整理はされてきているけど、連携はまだまだだなど。当然大学側としても、もっと地域に入り込まないといけないし、行政の方と一緒に計画を作るサポートをしないといけないと思っているが、まだまだそれができていない状況かなと思っています。特に委員会の皆さんで行政の活動に個別に参加していただいている方、協力していただいている方がたくさんいらっしゃると思いますが、そのような状況にあってもまだまだ連携ができていないのかなと思っています。次回では、それぞれが何ができるかということについて整理されたものが出てくると思うのですが、やっぱりそれを横の繋がりとしてどう繋げて、最終的に計画として良いものを作っていくかということについても、並行的に考えないといけないし、どちらかという委員会側から行政や地域の方々に寄って行って何ができるかということについても考えていかないといけない。当然大学としてもこれから何回でも地域の方に参りたいと思っていますし、できることをやっていきたいと思っている次第です。最後にここに参加されている方々、あるいはそれぞれの町内会の役員の方々はしっかり考えてらっしゃいます。他の市民の方々はどうかというと少し遠くを見渡すともう災害について考えてもらうに至っていないかなと思います。こういった素晴らしい計画などができようとしている。これは行政の役割だと思っているが、こういう計画を作っているということ、あるいは作ったということをも市民の方々にどうやってうまく高梁市民全員に伝えるかということを考えていただきたい。第1回の会議の時に「防災都市高梁」を目指すんだということを押搦で言わさしてもらった。その気持ちに何も変わっていませんし、むしろ地区防災計画の内容をみて、絶対にこれはできると確信しましたので、最後まで気を抜かずに私自身頑張っていきますので、みなさんもぜひいろいろところでサポートしていただければなと思っています。